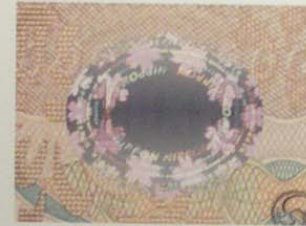


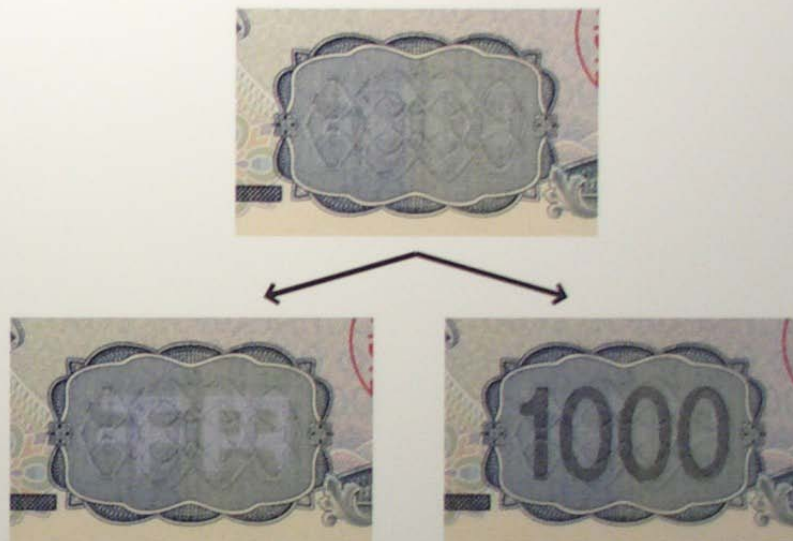
新技術

ホログラム



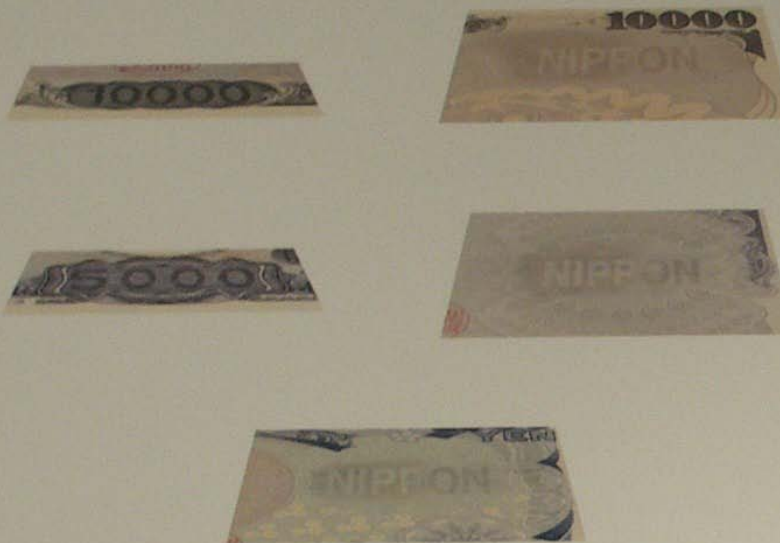
ホログラムは一万円券と五千円券の表左下に貼付されており、お札を傾けて見ると、角度によって、「額面数字」、「日本銀行の「日」の文字をデザイン化した模様」及び「桜」の模様が浮かび上がるとともに、色もいろいろと変化して見え、偽札との識別に役立ちます。

潜像パール模様



千円券独自の偽造防止技術であり、お札を傾けて見ると、角度によって、表左下に、(1)パールインキによる「千円」の文字や、(2)潜像模様による「1000」の数字が、それぞれ浮かび上がって見え、偽札との識別に役立ちます。

潜像模様



お札を傾けて見ると、表面では「額面数字」が、裏面では「NIPPON」の文字が、それぞれ浮かび上がって見え、偽札との識別に役立ちます。

パールインキ



特殊な顔料を用いたインキで印刷を行うことにより、お札を傾けて見ると、角度によって、表左右の余白中央部分にピンク色を帯びたパール光沢のある模様が浮かび上がって見え、偽札との識別に役立ちます

新技術

すき入れバーパターン



お札を光に透かして見ると、肖像の右側部分に一万円券では3本、五千円券では2本、千円券では1本のすき入れられた縦棒が見え、偽札との識別に役立ちます。

深凹版印刷



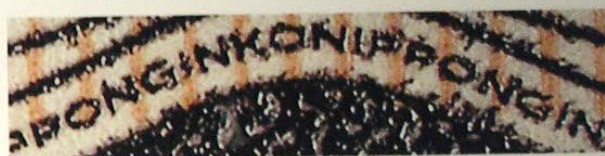
お札には凹版印刷（版面のくぼみの部分にインキを詰め、それを強い圧力で紙に転写する印刷方法）が用いられています。これまでのお札よりもインキが高く盛り上がる深凹版印刷であるため、独特のざらざらした手触り感が得られ、偽札との識別に役立ちます。

特殊発光インキ



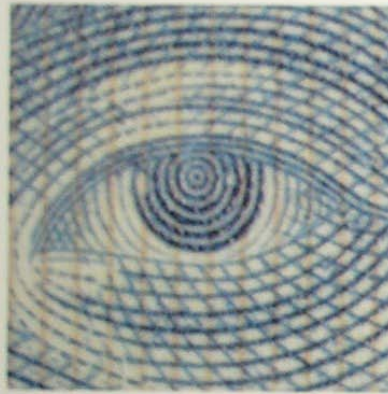
紫外線を当てると、表の印章（日本銀行総裁印）や表裏の地紋画線の一部が光って見えます。これらは、紫外線を当てると発光する特殊なインキで印刷されており、偽札との識別に役立ちます。

マイクロ文字



お札の表裏複数箇所には、「NIPPONGINKO」と「額面数字」が、凹版印刷やオフセット印刷により小さな文字で印刷されており、偽札との識別に役立ちます。一番小さな文字の大きさは、約0.2mmです。

超細密画線



お札の肖像（二千元札は守礼門）は、極めて細密な凹版画線によって描かれており、場所によっては1mmの中に最大11本の線が彫られています。人間は人の顔を識別する能力に優れており、ほんの少しの変化や印刷のずれ等によって表情が変わると違和感を覚えるため、このような極めて細密な凹版画線による肖像等は、偽札との識別に役立ちます。

白黒すかし



シャープで、微細な部分まで階調豊かに表現されている肖像（二千円札は守礼門）の白黒すかしが、独特の技法を用いてすき入れられています。お札を光に透かして見ると、くっきりと浮かび上がって見え、偽札との識別が容易になります。なお、国立印刷局以外で黒すかしの入った用紙を製造するためには、日本国政府の許可が必要となります。